



- 湖と人が織りなすものがたり -

琵琶湖システム

世界農業遺産に関するコンテンツを巡るには、次の順路がおすすめです。

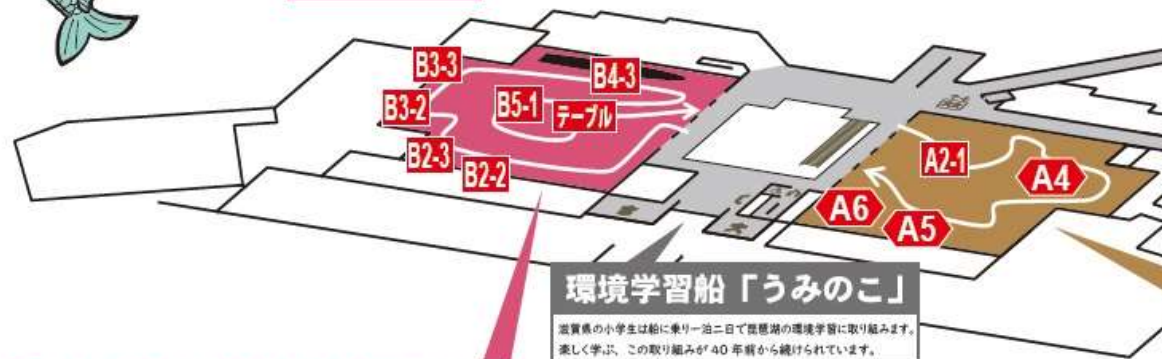
① C 展示室 (2F) → ② 水族展示室 (1F) → ③ B 展示室 (2F)

時間に余裕があれば、次の展示も見てみよう。

④ A 展示室 (2F) ⑤ 屋外展示 ⑥ 大人のディスカバリー



2F



環境学習船「うみのこ」

滋賀県の小学生は船に乗り一日二日琵琶湖の環境学習に取り組みます。楽しく学ぶ、この取り組みが40年前から続けられています。

① いまと向き合う ～琵琶湖から広がる共生の環～

C 展示室

琵琶湖を取り巻く自然環境と農林水産業の関係について下流域から遡って見ていきましょう。自然と共生する暮らしや、メカニズム、保全に取り組む人々の姿が見えてきます。

C1	琵琶湖へ出かけよう	自分の住んでいる地域と琵琶湖の繋がりを見てみましょう。豊かな湖を保全することが多くの人々の暮らしを守ることに繋がっています。
C2	ヨシ原に入ってみよう	湖畔のヨシ原は、多くの生物の住処となっています。人にとっては、漁業の場でもあり、刈り取ったヨシは、工芸品や祭りの道具にも利用されています。
C3	C3-1 田んぼと人との関わり	魚のゆりかご水田は水田に湖魚を呼び戻そうという取り組みです。この取り組みは、地域の人々の活動によって支えられています。
C3-2	滋賀の田んぼの生き物たち	田んぼでは豊かな生態系が育まれ、多様な生き物が生息していると言われています。その一部を覗いてみましょう。
C3-3	田んぼに集う人々	田んぼの環境を守るさまざまな取組を紹介しています。後半には琵琶湖システムのジオラマも展示しています。
C4	C4-1 川と琵琶湖	琵琶湖と川の関係について考えてみよう。洪水などの自然現象とダムなどの建造物のそれぞれに大切な役割があります。
C4-2	琵琶湖を囲む森	琵琶湖の周りには天然林と人工林があります。川と森、そしてそこに住む生き物たちと人との関係について考えてみましょう。豊かな森は多様な生き物たちに生育環境を提供し、同時に琵琶湖に質の良い水を供給することに繋がります。終盤では森を守る活動について紹介しています。
C5	C5-3 1964年 農村の暮らし	1960年代の琵琶湖周辺の暮らしが再現されています。水と暮らし、生き物と暮らしがどのように関わっていたか覗いてみましょう。



C1 琵琶湖へ出かけよう



C3-2 滋賀の田んぼの生き物たち

② 水族展示室へ



④ 古代湖の誕生 ～遷移する自然～

A 展示室

琵琶湖地域固有の自然や文化の源泉を学んでみよう。

A2	A2-1 うつり変わる湖	琵琶湖の生い立ちを学んでみましょう。琵琶湖は今よりもっと南の地域で誕生しました。
A4	うつり変わる生き物	琵琶湖地域にすむ生き物も時代とともに変化してきたことが分かります。
A5	気候と森	変わる気候と森 気候変動の中で森の姿も変化してきました。そのことは湖底の植物や花粉の化石からも知ることが出来ます。
A6	琵琶湖の生い立ちと私たち	変わる大地、変わる気候、変わる生き物、湖が絶えず変化してきたことがわかります。



B3-3 水辺でかせぐ



テーブル



A4 うつり変わる生き物

③ 過去と向き合う ～引き継がれてきた琵琶湖の暮らしと文化～

B 展示室 琵琶湖地域の自然を開拓し、農林水産業が発展し、そこに独特の文化も育まれていきました。一方で様々な課題に直面し、その中で様々なルールが生まれてきたことを知ろう。

B2	B2-2 森をひらく	過去の時代の山の資源利用についてジオラマを通して知ることができます。
B2-3	森をつくる	過去には過度な資源の採取により山が荒廃し、これにより洪水被害が深刻化した時期もありました。そのため、近代においては砂防対策として木々が植えられ、山は再び森で覆われるようになりました。
B3	B3-2 水辺に生きる	琵琶湖周辺のかつての半農半漁のスタイルをジオラマを通してイメージできます。また、エリ漁は、琵琶湖を代表する漁法です。そのエリ漁の手法が模型によってわかりやすく説明されています。沖に向けて矢印状に配置されたエリの設備は、琵琶湖特有のランドスケープも形成しています。
B3-3	水辺でかせぐ	琵琶湖では様々な種類の漁が営まれています。そのため、漁具にもたくさんの種類があります。
B4	B4-3 湖を使う	琵琶湖の水は水田にも汲み上げられ、農地の水不足の解消にも大きく寄与してきました。
B5	B5-1 人をむすぶ 水辺の掟	コミュニティや生活を維持するためのルールや祭事には、農業、漁業、里山管理などを持続的に支えるさまざまな要素が含まれています。これらのルールや掟には、先人たちの知恵が織り交ぜられており、その歴史を垣間見ることができます。
テーブル		里の空間を模式的に表したテーブルがあります。人と自然の距離感がよくわかります。

5 屋外展示 フィールドに出てみよう！

樹冠トレイル

鳥の目線で森の中を歩いてみよう。
樹冠トレイルから琵琶湖が一望できます。
実際に設置されているエリを見ることもできます。

生活実験工房

田園空間を疑似体験できます。
季節に応じた農業体験や生き物観察会を実施しています。



生活実験工房



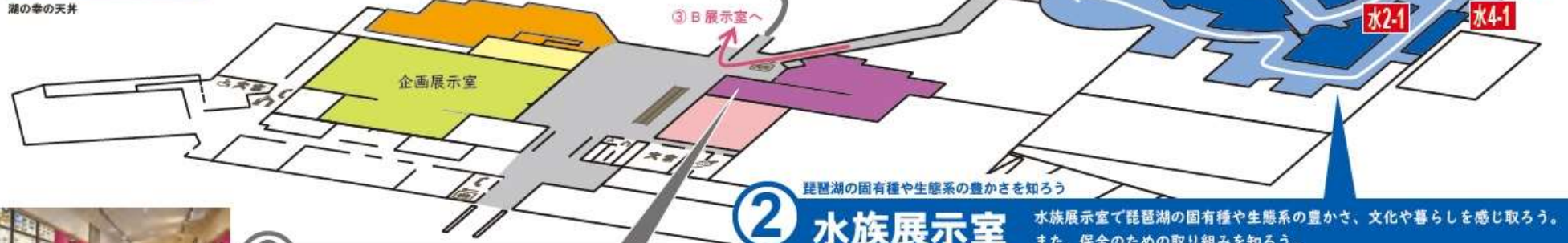
樹冠トレイル



湖の雫の天井

レストラン「にほのうみ」

ブラックバスの天井やフナズシもたべられます。



琵琶湖の固有種や生態系の豊かさを知ろう

2 水族展示室

水族展示室で琵琶湖の固有種や生態系の豊かさ、文化や暮らしを感じ取ろう。
また、保全のための取り組みを知ろう。

水1-1	内湖やヨシ原にすむ生き物たち	内湖やヨシ原にすむ生き物たちを覗いてみましょう。
水2-1	暮らしの中の魚たち	私たちの暮らしのすぐそばにもたくさん生き物たちがいます。それらは琵琶湖地域特有の文化とも深く関わっています。
水2-2	運れてこられた生き物たち	外来種は在来種存続の脅威の一つです。琵琶湖にもその脅威が存在しています。
川魚屋 魚滋	川魚屋「魚滋」	琵琶湖の魚がどのように調理されているか見てみよう。滋賀県独自の料理もあります。
水3-1	下流域の魚とヤナ漁	春から夏に琵琶湖周辺河川でみられるヤナ漁が水槽に再現されています。季節によって展示される魚の種類が変わります。
水3-2	河川中流域の生き物たち	琵琶湖流入河川の中流域をイメージした水槽には琵琶湖内では見られない多くの魚たちがいます。
水3-3	河川上流域の生き物たち	豊かな森は昆虫たちを育み、それはまた溪流魚たちの餌となります。溪流魚は森によって育まれています。
水4-1	琵琶湖の水鳥	水鳥たちにとっても琵琶湖の湿地は大切な生息環境です。1993年にはラムサール条約湿地として登録されています。しかし、環境の悪化で数が減っている種もいます。

6 おとなのディスカバリー

琵琶湖周辺の里山に生息する生き物のことをもっと調べてみよう。

世界農業遺産に関するコンテンツを巡るには、次の順路がお勧めです。

① C 展示室 (2F) → ② 水族展示室 (1F) → ③ B 展示室 (2F)

時間に余裕があれば、次の展示も見てみよう。
④ A 展示室 (2F) ⑤ 屋外展示 ⑥ 大人のディスカバリー



1F



水1-1 内湖やヨシ原にすむ生き物たち



水3-3 河川上流域の生き物たち



川魚屋「魚滋」